

事業名 科学警察研究所建設工事

フレキシビリティ確保のため実験室の仕様設定とメカニカルボイドの採用及び貴重な資料や装置の保護のための免震工法の採用

受賞機関 建設省関東地方建設局営繕部
事業実施期間 平成7年3月13日～平成10年11月28日
事業費 22,800百万円

技術等の特徴と評価

科学警察研究所の業務はその時々の社会的要請により変化するため、それに応えるための施設（フレキシビリティの確保）とし、また実験室では高度な分析装置等を使用するため免震システムを導入したことが評価できる。

事業の概要と効果

本研究所は、わが国で唯一の犯罪科学に関する総合的な研究を行う機関で、科学捜査、犯罪の防止、少年の非行防止、交通事故防止等に関する研究・実験・鑑定・検査を行う施設である。こうした業務は、その時々の社会的な要請により変化するため、各実験室の設計にあたっては、これらの多様な要請に応えられる施設整備をめざしている。

具体的には、設備配管類を集中させた取り出し口（バンネ）、実験用電気配線を容易にする分電盤、天井の照明等のレイアウト変更に対応するためのシステム天井、各実験室の個別の室内環境設定に対応するための個別空調機を備え、また、メカニカルボイドと称する中庭を実験棟に設け、エネルギーの供給及び実験排水等の変更を容易にするため露出配管を行った。

また、実験室では貴重な鑑定物件が持ち込まれ、各種薬品、高度な分析装置等を使用するため、これらの保護、二次災害の防止、継続的な機能の確保を図るため免震工法を採用した。

効果として、実験室のフレキシビリティをできる限り確保したことで、将来の変化に伴う研究者の研究・実験・鑑定・検査等の様々な要請に十分対応することが可能である。

また、免震工法を採用することで、職員、来庁者の安全を確保するとともに、地域住民に対しても、二次災害の防止を図る。

受賞賛助会員 (株)大本組、五洋建設(株)、不動建設(株)、三井建設(株)



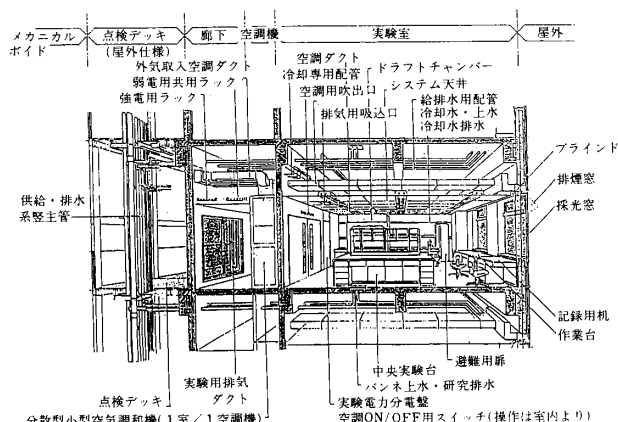
免震ピット



実験室内部



メカニカルボイド



実験室のエネルギーサーキュレーション